

# 創意工夫による新たな収入確保の取り組み

久々野高山営林署 久々野森林事務所 森林官 佐伯啓夫

## 1. はじめに

国有林野事業経営の健全性を早期に確立するため、特段の取り組みが必要である。当署においては、従来から取り組んである業務を見直し収入拡大及び新規の収入確保について署・現場をあげて全職員が一丸となって積極的に取り組んでいるところである。

通常の業務を進めている中で、創意工夫を凝らし意欲的な取り組みの結果、現在までに当初の目標を大きく上回る成果を上げることができた。特に、特別増収については目標額の約270%を達成することができたので、その取り組みについての概要と成果を報告する。

## 2. 内 容

### (1) 新規収入対策会議の開催

本年度は、当署が営林署の統合によって新たなスタートをきった。両署が従来から取り組んできた収入確保対策を再検討・再確認し、一層の改善を加えて、効率よく収入確保を図るために「新規収入対策会議」を開催した。

その会議は、署長・次長・調整官・課長・事業所主任・森林官を中心に構成し、署・現場一体となって審議した。その中では、森林官より担当部内における、クリスマスツリー・土石・切花・笹等の販売又、遊休施設の活用による貸付・売り払い等、又、事業所主任からは、林産物で少し手を加えるだけで付加価値をあげ販売できる物があるなど46件の提案があった。

その提案を受け販売可能な物を、販売対策会議において、逐次リストアップし、買受業者を捜し、全署あげて販売に努めてきた。

### (2) 提案され実行に移した事案

- ・ クリスマスツリーの販売
- ・ 土石の販売
- ・ 切花・枝・笹・葉・水苔の販売
- ・ 緑化木の販売
- ・ 支障木の有利販売
- ・ 不要施設の売り払い

- ・ 各種イベント参加による木製品の販売
- ・ 根株・打ち出し木の販売
- ・ 薪の販売
- ・ 珍木・銘木の販売
- ・ スギの環状剥皮による「乾燥材」の生産と販売
- ・ 木製品の製作と販売
- ・ 水源林地域総合整備事業の積極的推進 等

### (3) 精力的に取り組んだ事案

#### ① 土石の販売

飛驒地方の雑石となっている松倉石が、部分的にあり本年度2口販売した。

その1箇所は、阿多粕国有林内の林道新設予定地で、測量も既に終了した箇所であった。この箇所は土石を販売するかたわら林道新設も行った。わずか30Mの延長であったが、土石の販売額50万円の収入と林道新設に係る経費約45万円の支出を抑えることができ、実質95万円の収入を上げることができた。(写真-1、写真-2)

2箇所目は、無数河国有林1300林班内の県道萩原-久々野線で、拡幅工事箇所であった。土石の販売にあたっては、県土木の工事発注時期の関係等もあり関係者との調整などに苦慮した。販売額については、41万円であった。



写真-1 販売前

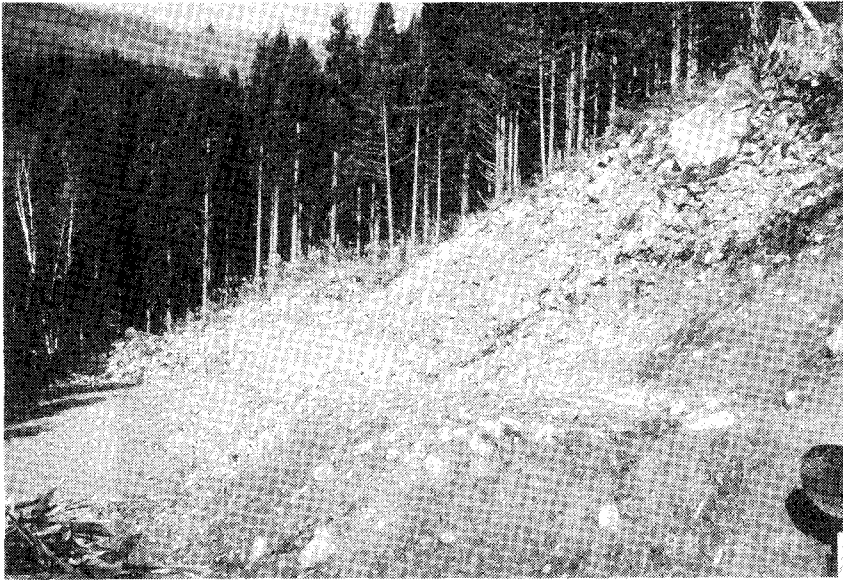


写真-2 販売後

② クリスマスツリーの販売

名古屋港ガーデン埠頭で、12月開催された「スターライトレビュークリスマス」というイベントに、当署から高さ22Mのビッグクリスマスツリーを販売した。

なお、その模様はテレビで放映された。販売額は46万円であった。

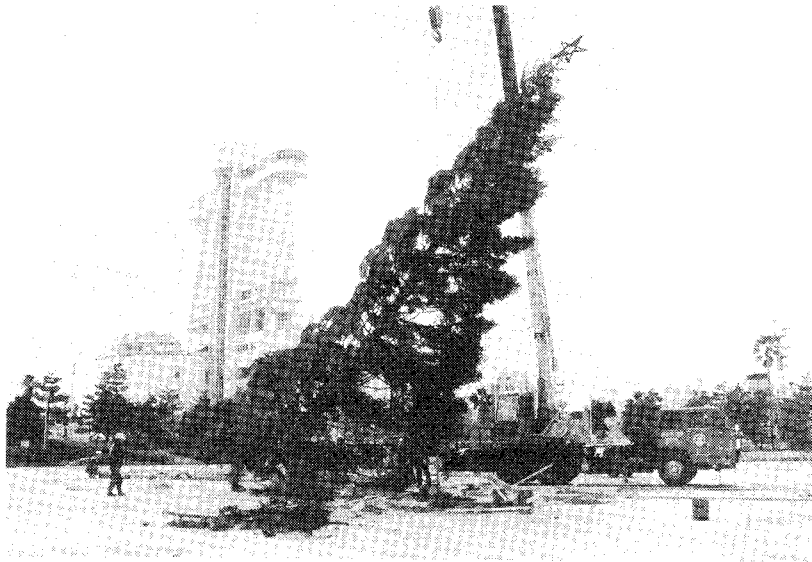


写真-3 ツリー組立前



写真-4 ツリー組立後

また、一般家庭用に、職員の手作りの鉢に植え付けクリスマスに向けて販売した。

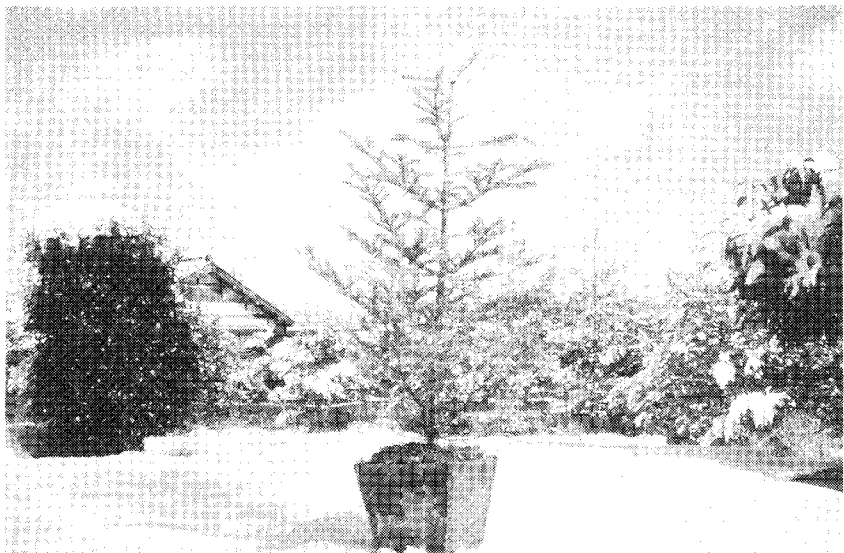
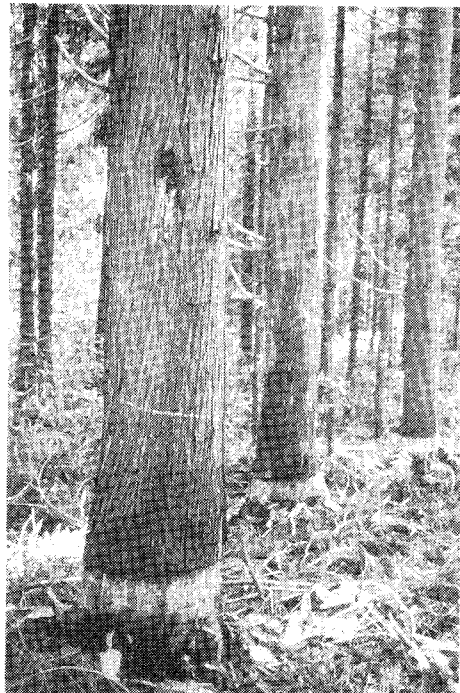


写真-5 ミニツリー

### ③ スギの天然乾燥材生産

牛牧谷国有林（今年度直よう冬山事業地）は、ほとんどスギの林分である。スギはヒノキに比べ販売価格が安価であるため、収入の増は困難であることが予想された。そこで、何とか付加価値を高めて生産できないか模索していたところ、過去に同じ箇所を立木販売で間伐した業者が「環状剥皮を実施し天然乾燥して販売したところ1～2割高で売れた。」という情報を聞いたので、7～8月に掛け約200本根元の環状剥皮を実施した。（写真－6・7）販売結果はまだ出ていないが、少しでも高く販売できることを期待している。



写真－6 剥皮した状況



写真－7 剥皮した状況

### 3. 結 果

今回取り組んだ項目は多種多様であるが、成果の上がった項目の主なものは、

- (1) 作業道開設と土石の販売の組合せ
- (2) 巨大クリスマスツリーの販売
- (3) 根株等の販売
- (4) 遊休建物の貸付及び有利売り払い
- (5) 木製品の販売等

である。

このような努力の結果、特別増収については、予定に対し270%を達成した。

今回、取り組む中で、特に重要なのは「常に問題意識を持つこととアンテナを高くして色々な情報を掴み、積極的に物事に対処する。」ことが大切であると考えている。

現在、未消化の提案が山積している。今後さらにこれらの実現に向けて努力すると共に、収入の大宗を占める林産物の付加価値を高め、創意工夫を凝らし最大限の収入確保と効率的な事業実行の取り組みを定着するよう努力したいと考えている。